



本市の高齢化率は約 35%と全国平均よりも高く推移している中、団塊の世代が全員 75 歳以上となる 2025 年を迎えようとしています。今後、高齢者人口は減少が見込まれるものの、団塊ジュニア世代が 65 歳以上となる 2040 年に向けては、後期高齢者人口が増加し、医療や介護を必要とする高齢者や認知症高齢者の増加が見込まれています。

一方で、生産年齢人口は減少し続けていくことが予測されており、要介護者の増加が見込まれる 2040 年を見据えた中長期的な視点で、人口動態や医療・介護ニーズなど地域の実情に応じて、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでいくことが重要です。

この度策定いたしました、第 9 期山陽小野田市高齢者福祉計画「いきいきプラン 21」では、「高齢者が住み慣れた地域で自分らしく、安心していきいきと暮らし続けることのできるまち」を基本理念としています。

高齢になっても自分らしく笑顔で年を重ねることができるよう、6 つの基本目標のもと、介護サービス基盤の計画的な整備を進めるとともに、これまでの「支える側」「支えられる側」の関係を超えて、地域の皆様を始め様々な主体による介護予防や認知症予防、支え合いの取組を促進していきたいと考えています。

山陽小野田市では、健康寿命の延伸を目標とした「スマイルエイジング」に全市民的に取り組んでおり、市民一人ひとりが健康で、笑顔で年を重ねることのできる地域づくりを目指しています。医療・介護サービスの需要の増加や介護人材の不足など、取り組んでいく上での課題も想定されますが、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことのできる「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田」を市民の皆様と共に実感できるよう高齢者施策の推進に取り組んでいきたいと存じますので、引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり多大な御尽力をいただきました、山陽小野田市高齢者保健福祉推進会議の委員の皆様及びアンケートなどで貴重な御意見をいただきました市民・関係団体の皆様に心から感謝申し上げます。

令和 6 年 3 月

山陽小野田市長 藤田 剛二

